

令和5年度 船橋市飛ノ台史跡公園博物館 企画展

# 変化する縄文の暮らし

船橋の縄文時代後期



Tobinodai Historic Site Park Museum  
船橋市 飛ノ台史跡公園博物館

## 開催にあたって

縄文時代は約1万年という長い期間続いた時代として知られていますが、その内容は環境の変動などによって、変化していたことがわかっています。今回の企画展でとりあげる縄文時代後期は、文化的な変化が生じた時期と捉えられており、それは縄文時代の人々の暮らしや残された道具からも見てとれます。

企画展が縄文時代や船橋の遺跡への理解が深まるきっかけになれば幸いです。

令和5年11月

Tobinodai Historic Site Park Museum  
船橋市 飛ノ台史跡公園博物館

## もくじ

1 船橋の遺跡把握の歴史	1-2
2 土器で見る縄文時代後期	3-4
3 船橋の土偶ブチ集合	5-6
4 祭りの道具	7-8
5 変化する縄文時代後期	9
6 船橋の縄文時代後期の主な遺跡	10-12

## 例　言

- 1 本書は、令和5（2023）年11月11日（土）～令和6（2024）年2月4日（日）に開催する、令和5年度企画展「変化する縄文—船橋の縄文時代後期一」の展示図録です。
- 2 本書の内容と展示構成は、異なっている部分があります。また、本書の写真は展示資料の全てを含むものではありません。
- 3 企画展は館員の協力を得て、狩野美那子（当館学芸員）が、本書の編集・執筆・写真撮影を行いました。文化課・埋蔵文化財調査事務所・郷土資料館の協力を受け、写真の一部は埋蔵文化財調査事務所から提供いただきました。
- 4 10～12ページの地図は、地理院タイル（淡色地図）・船橋市都市計画図（1/2,500）を加工して作成しています。
- 5 遺物のキャプションにあるFTM000000は飛ノ台史跡公園博物館の資料番号を表しています。

## 縄文時代後期はどんな時代か

## 縄文時代の区分と後期の土器型式の概要

縄文時代は、自然からの豊かな恵みを活かして、人々が狩猟・採集・漁労を行い定住生活を送っていた時代です。裏を返せば、縄文の人々の暮らしは、環境からの影響を強く受けていることになりますが、約1万年続いた縄文時代の環境は一様ではなく変化していました。

関東や中部地方では、縄文時代中期に遺跡の数が最も多くなり、後期になると減少することがわかっていますが、千葉県は中期から後期にかけての遺跡の減少量が少ないことが知られています。中期から後期の変化は寒冷化によるものと推定されていますが、魚類・貝類や植生の分析からは、それが直接的には見えないという指摘もあります。

船橋の後期の遺跡を見ると、土偶や石棒といった実用ではなく祭りに使う道具（第二の道具）の増加、貝塚の貝の種類、中期とは異なる住まいの形といった特徴が見られます。

時代	時期	土器型式	おおよその年代
縄文時代	古期	祢名寺式	4,400-4,200年前
	中期	堀之内1式	4,200-4,000年前
	中期	堀之内2式	4,000-3,900年前
	前期	加曾利B1式	3,900-3,700年前
	中期	加曾利B2式	3,700-3,500年前
	後期	加曾利B3式	3,500-3,400年前
弥生時代	曾谷式	3,400-3,300年前	
	安行1式	3,300-3,200年前	
	安行2式		

小林謙一 2019『縄文時代の実年代 - 土器型式編年と炭素14年代 -』を参考に作成





船橋の遺跡マップ  
(全国報告地図に載ります)

2023(令和5)年:206地点



1977(昭和52)年:134地点



遺跡(埋蔵文化財包蔵地)は、試し掘りの結果や、周辺で見つかった土器・石器などによって、新しく登録を行い、また範囲を変更しています。地面に埋まっている直接は見ることができない遺跡の様子を、より正確に把握しようとする取り組みは現在も続いている。

1971(昭和46)年～1977(昭和51)年に市内を調査しまれました。遺跡に付けられている通し番号は、現在にも引き継がれており、新しく見つかったものは番号を追加しています。時代の区分、先土器・縄文・弥生・土師・中世・中近世となっています。

2021	2000	1983	1977	1974	1973	1972	1971	1970	1969	1968
船橋の遺跡に関するできごと （船橋市史）	飛ノ台史跡公園博物館開館 （国史跡指定）	「船橋市の遺跡」遺跡総数145ヶ所 把握が点から面に。	「船橋市の遺跡」	佐倉道南遺跡発掘調査 海老ケ作貝塚2次発掘調査 飯山満東遺跡発掘調査	郷土資料館開館 夏見大塚遺跡1次発掘調査	古和田台遺跡・柏上遺跡 池谷津遺跡発掘調査	白井先（千葉ニュータウン）発掘調査 外原遺跡発掘調査 海老ケ作貝塚1次発掘調査 宮本台貝塚発掘調査	詳細不明 「船橋市の遺跡」地図が残っておらず		

船橋で最も早く知られた遺跡として、古作貝塚があります。千葉県では道路補修の砂利代わりに貝殻が利用されることがあり、それによって見つかる貝塚もありました。木下街道や近くの建設工事では、古作貝塚の貝殻を利用していたことがわかっており、船橋の遺跡把握は最初期から、開発と深い関係がありました。

## 1964(昭和39)年: 26地点

『船橋市遺跡一覧』



船橋市が初めて発行した遺跡の一覧表を図にしたもので、この年に船橋市文化財保護条例が制定されました。遺跡の一覧表の名前は「船橋市内縄文式時代遺跡表」となっており、遺跡把握の中心は縄文時代におかれていったことがわかります。

## 1892(明治25)年: 4地点

「下総武藏相模二於ケル貝塚ノ分布」若林勝邦の船橋市内の遺跡



論文の中で、貝塚は全国で88ヶ所、下総・武藏・相模に55ヶ所あるとされ、その中に船橋の4遺跡が入っています。東葛飾群古作村（古作貝塚）、東葛飾群後貝塚村（後貝塚）、東葛飾群前貝塚（前貝塚）、千葉郡鴨台村（不明）の4ヶ所でした（現在の遺跡との対応は（）の通りです）。

1967	1966	1964	1963	1962	1958	1937	1932	1923	1897	1893	1892	1886
高根木戸発掘調査	夏見台遺跡1次発掘調査	「船橋市遺跡一覧」 発掘調査 船橋市文化財保護条例制定	塚田貝塚 (前貝塚・堀込貝塚)	藤原北貝塚発掘調査	「船橋市史」 発行 市内の遺跡をまとめる 弥生・古墳もまとめられる	「船橋町史」 工事などで見つかった遺跡などを紹介	飛ノ台貝塚発掘調査	前貝塚発掘調査	「日本石器時代人民遺物發見地名表」 全国の地名表に船橋の遺跡も収録	八木義三郎による古作貝塚の発掘	市内の4遺跡が取り上げられる 「下総武藏相模ニ於ケル貝塚ノ分布」 『東京人類学会報告』第9号	古作貝塚の名前が見られる 『東京人類学会報告』第9号

縄文時代後期の土器は、中期の土器が立体的な装飾で力強い印象なのに対して、繊細な装飾を見る楽しみがあります。土器の形も、深鉢（口径に比べて器高の高いもの）が主流であることは変わりませんが、浅鉢（器高の低い皿に近い形のもの）、注口土器（注ぎ口の付いたもの）、壺のような形のものなど、形のバリエーションが広がります。また、精製土器（丁寧に仕上げているもの）と粗製土器（文様の少ない大型のもの）が分かれ、それらを用途によって使い分けていたと考えられます。



▲新山貝塚（4）出土  
深鉢形土器 称名寺Ⅰ式



▲高根木戸北貝塚 出土  
(FTM000077)  
深鉢形土器 堀之内1式



◀宮本台遺跡群（1）出土  
(FTM021563)  
深鉢形土器 堀之内2式



▲新山貝塚（4）出土  
深鉢形土器 称名寺Ⅱ式

このうち  
堀之内式期 約4,200~3,900年前



▲古作貝塚（2）出土  
(FTM021546)  
深鉢形土器 堀之内2式

### 加曾利 B 式期 約3,900～3,400年前



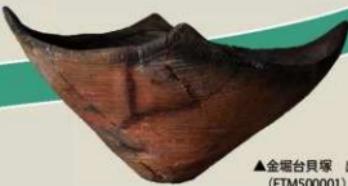
◀宮本台遺跡群(1)出土  
(FTM009464)  
深鉢形土器 加曾利B式



▲古作貝塚(3)出土  
(FTM033968)  
浅鉢形土器 加曾利B2式



◀金堀台貝塚出土  
(FTM500005)  
注口土器 曽谷式



▲金堀台貝塚出土  
(FTM500001)  
浅鉢形土器 加曾利B3式

### 曾谷式期 約3,400～3,300年前



▲金堀台貝塚出土  
(FTM500025)  
深鉢形土器 安行1式



▲金堀台貝塚出土  
(FTM500015)  
浅鉢形土器 安行1式

### 後期安行式期 約3,300～3,200年前



▲金堀台貝塚出土  
(FTM500025)  
深鉢形土器 安行1式



▶金堀台貝塚出土  
(FTM500062)  
鉢形土器 安行2式

### 3 船橋の土偶 集合

フチ

0 4 cm  
およそ 1/2

船橋市内で確認できる土偶は現在のところ23点で早期の1点を除き、後期から晩期にかけてのものです。頭や脚だけなど破片で見つかることが多いことも土偶の特徴です。土偶が最も多く発見されているのは金堀台貝塚で17点見つかっています。土偶の表と裏をじっくりと見てみましょう。



1



2



3



4



5



6



8



9



7



10



11



12



13

高橋コレクション 船橋市内の遺跡保護に尽力された高橋照氏より寄託を受けている遺物です。  
武井コレクション 2019年に市内在住の武井潤一氏より寄贈を受けた遺物です。



- 1 小室上台遺跡(早期) FTM038270
- 2 金堀台貝塚 FTM500007
- 3 金堀台貝塚 武井コレクション
- 4 金堀台貝塚 高橋コレクション
- 5 金堀台貝塚 FTM500067
- 6 金堀台貝塚 武井コレクション
- 7 金堀台貝塚 FTM500068
- 8 古作貝塚(船橋市所蔵)「古作貝塚—遺跡確認調査報告」1984 船橋市遺跡調査会(古作貝塚(3))
- 9 宮本台遺跡群(1) FTM008929
- 10 金堀台貝塚 FTM500069
- 11 池谷津遺跡 「千葉ニュータウン埋蔵文化財調査報告書Ⅱ」1974 千葉県開発庁
- 12 古作貝塚(東京大学総合博物館所蔵) 堀越正行・田多井用章 1996 「東京大学蔵の船橋市古作貝塚出土遺物」『千葉県史研究』第4号

- 13 金堀台貝塚 武井コレクション
- 14 古作貝塚(京都大学総合博物館所蔵) 安井健一 2018 「京都大学総合博物館、東京国立博物館、東京大学総合博物館所蔵の千葉県出土土偶について」『千葉県史研究』8
- 15 金堀台貝塚 高橋コレクション
- 16 金堀台貝塚 高橋コレクション
- 17 金堀台貝塚 高橋コレクション
- 18 金堀台貝塚 高橋コレクション
- 19 金堀台貝塚 高橋コレクション
- 20 金堀台貝塚 高橋コレクション
- 21 金堀台貝塚 高橋コレクション
- 22 金堀台貝塚 FTM500083
- 23 金堀台貝塚 高橋コレクション

縄文時代後期になると、実用というよりも、儀式やお祭りに使ったと考えられる道具が増えてきます。本当の使用方法は縄文時代に生きた人にしかわからないのかもしれません、どんなことに使われていたのかを考えることも縄文時代を考える楽しみの一つです。

### 注口土器

注口土器は、液体を注ぐためと考えられる注ぎ口をもつ土器です。中期までにも注ぎ口をもつ土器はありますが、後期になると算盤玉に似た形など独自の器形のものが増えます。



▲薬園台貝塚 出土  
(FTM013319) 堀之内 1式



▲宮本台遺跡群(1) 出土  
(FTM021562) 堀之内 1式



▲古作貝塚(3) 出土  
(FTM033971) 加曾利B1式



▲古作貝塚(2) 出土  
(FTM021545) 加曾利B2式



▲宮本台遺跡群(84)  
SI-001 出土 堀之内 2式



▲古作貝塚(2) 出土  
(FTM021551) 加曾利B式



▲金堀台貝塚 出土  
(FTM500067)



▲金堀台貝塚 出土  
(FTM500073)

### 異形台付土器

脚部をもつ小型の土器で、脚部に孔があるものが多くあります。容器として何かを入れるためとは考えにくい実用性の低い器で、何に使われたのかは不明です。

## ミニチュア土器

何かを入れるには少し小さすぎる土器です。  
なにを入れたのでしょうか。



▲西ヶ堀込遺跡 出土

## 石棒

文字通り、石の棒。男根を象る石製品とする説もありますが、真相は不明です。大きさのバリエーションに幅があり、片手では持ち上げられない大型のものもありますが、船橋でこれまでに出土しているものは小型のものが多く、丁寧に磨かれたものや、赤く色が塗られたものがあります。



▲金堀台貝塚 出土  
高橋コレクション



▲金堀台貝塚 出土  
高橋コレクション



▲金堀台貝塚 出土  
高橋コレクション



▲金堀台貝塚 出土  
高橋コレクション



▲西ヶ堀込遺跡  
出土



▲西ヶ堀込遺跡  
出土



▲新山貝塚 (4)  
SI-001 出土

## 独鉢石

形が仏具の「独鉢」に似ていることから名前が付けられました。長細く中央に2つの凸部をもちます。用途は、オモリ、石斧のような敲打具、祭祀の道具といった説があります。



▲西ヶ堀込遺跡 出土

## 装身具（腕輪・耳飾り）

装身具は付ける場所やその素材は様々です。後期の終わりには土で造られた大型の耳飾りが出土します。貝類の腕輪は古作貝塚では、オオツタノハ、ベンケイガイ、サトウガイといった南の海でしか採れない貝が使われました。



▲金堀台貝塚 出土  
(FTM500081)



▲西ヶ堀込遺跡 出土



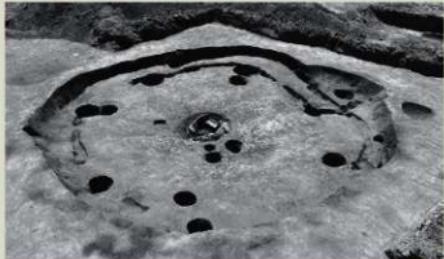
▲西ヶ堀込遺跡 出土



▲西ヶ堀込遺跡 出土  
(骨製)

## 住居の変化

縄文時代後期は住まいの形に変化が生じます。中期の住居よりも、地面を掘りこむ深さが浅いものが多くなります。そして、屋根を支える柱が細くなり、数が増えることが発掘からわかっています。住居の中での過ごし方も変わったのかかもしれません。



ついじ台貝塚（4） SI-001  
中期末



新山貝塚（4） SI-168  
後期初頭

## 貝塚の貝の変化

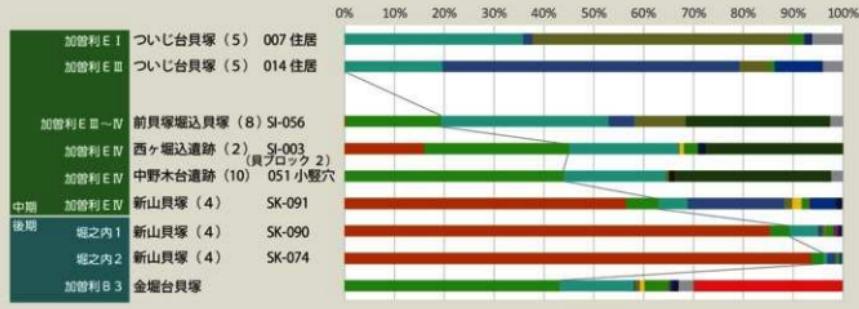
後期になると貝塚を構成する貝の種類にも変化があります。中期まで多かった、ハマグリやマガキよりも、オキアサリやイボキサゴが貝塚の貝に占める割合が増えます。これは海辺の環境の変化や、貝を採集する場所の変化、縄文人の好みの変化など様々な理由が考えられています。



イボキサゴ



オキアサリ



■ イボキサゴ ■ オキアサリ ■ ハマグリ ■ マガキ ■ アサリ ■ バカガイ ■ シオフキ  
■ カガミガイ ■ ウミニナ ■ ツメタガイ ■ オキシジミ ■ 破碎 ■ その他合計 ■ ヤマトシジミ

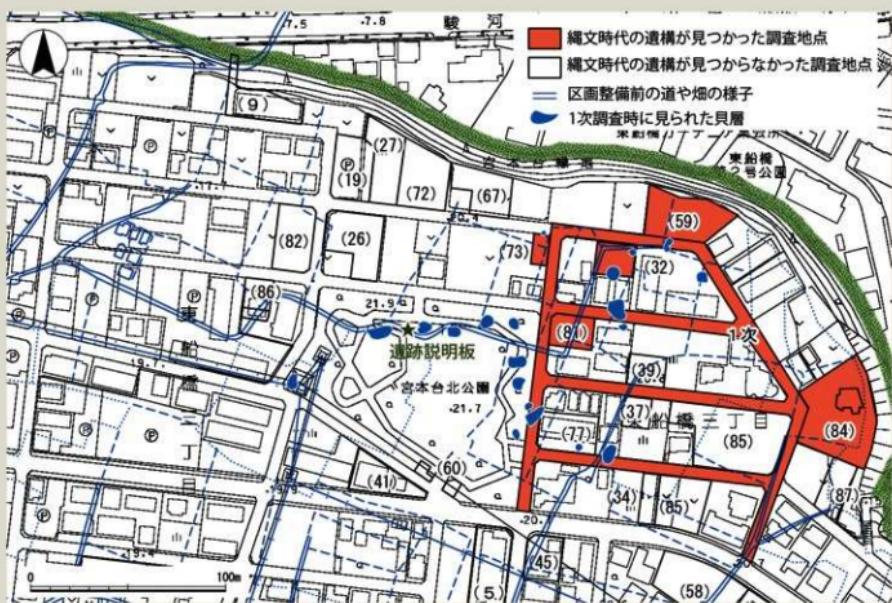
縄文中期～後期の貝塚から見つかる貝の割合

## 6

## 船橋の縄文時代後期の主要な遺跡



宮本台遺跡群 (宮本台貝塚)



宮本台遺跡群で縄文時代の遺跡が見つかっている範囲

宮本台遺跡群はこれまでに87回の発掘調査が行われており、1次調査の行われた遺跡の北東部を中心に縄文時代後期の遺構が広がっています。1次調査は土地区画整理にともない、宮本台北公園の東側にある住宅地の道路部分を発掘し、6軒の竪穴住居と17の小竪穴、1つの土坑から多数の人骨が見つかりました。

▲宮本台遺跡群 (1) 出土  
(FTM009519) 堀之内 2式▲宮本台遺跡群 (1) 出土  
(FTM021560) 堀之内 2式▲宮本台遺跡群 (1) 出土  
(FTM021565) 堀之内 1式▲宮本台遺跡群 (84)  
SI-001 出土 堀之内 2式

宮本台遺跡群から出土した縄文土器



古作貝塚は現在、中山競馬場となっています。1884年（坪井正五郎「東京近傍古跡探索ノ事」『理学協会雑誌』第7号）には貝塚として報告されるなど、古くから把握される遺跡で、1928年には工事で貝輪入り土器（東京大学総合博物館所蔵）が発見され、広く知られるようになりました。1980年代に廐舎の建て替え工事で4次の発掘調査が行われました。これまでに発見された壺穴住跡は4軒と少ないですが、40体を超える人骨が見つかっています。



貝輪入り土器（レプリカ）



▲古作貝塚（1）出土  
(FTM021544) 加曾利ElV式

▲古作貝塚（3）出土  
加曾利B2式



かながわ  
かながわ  
金堀台貝塚



発掘された竪穴住居跡



遺跡の現状

金堀台貝塚は印旛沼水系の神崎川の最も奥にある谷に面した台地上に立地する、後～晩期の貝塚です。1958年に船橋市史編纂事業で発掘調査が行われました。貝塚は東京湾から持ち込まれたオキアサリなどの海の貝と、汽水に生息するヤマトシジミから構成されます。土偶や石棒、異形台付土器、土製耳飾など祭りの道具が多く出土します。

#### 主要参考文献

- 市立市川博物館 1980 「千葉県の土偶」
- 八千代市歴史民俗資料館 1995 「縄文時代の技と祈り～異形台付土器の世界～」企画展図録
- 財団法人 千葉県資料研究財団 2004 「千葉県の歴史」資料編 考古4（遺跡・遺構・遺物）
- 玉田芳英 2007 「土偶とその周辺II（縄文後期～晩期）」 日本の美術 第498号
- 原田昌幸 2010 「土偶とその周辺II（縄文後期～晩期）」 日本の美術 第527号
- 國學院大學研究開発推進機構学術資料館 2011 「縄文時代の大型石棒－東日本地域の資料集成と基礎研究－」
- 飛ノ台史跡公園博物館 2016 「飛ノ台史跡公園博物館 紀要」第13号 船橋市金堀台貝塚の研究
- 阿部芳郎 編 2019 「縄文文化の繁栄と衰退」



令和5年度船橋市飛ノ台史跡公園博物館企画展

## 変化する縄文の暮らし

---

発行日 令和5年11月11日

編集・発行 船橋市教育委員会飛ノ台史跡公園博物館

〒273-0021 千葉県船橋市海神 4-27-2

Tel. 047-495-1325

製作・印刷 (有)エーワンネットワーク